



当院における来院理由となる症状の第3位となった『**带状疱疹・带状疱疹後神経痛**』についてお話ししたいと思います。

《带状疱疹・带状疱疹後神経痛》

『**带状疱疹**』は、子どもの時にかかった水疱瘡のウイルスが神経の中に潜んでいて、身体の抵抗力が落ちた時に再活動を始め神経を伝わって、発疹が帯のように現れます。带状疱疹の痛みは、皮膚症状が現れるのと前後して、ウイルスによる炎症が起こり神経が刺激されるため、スキンズキンする痛みが現れます。通常、1カ月くらいでかさぶたがとれて治っていきませんが、皮膚の症状が消えた後にも痛みが残る場合があります。これを『**带状疱疹後神経痛**』といいます。带状疱疹後神経痛の痛みは、ウイルスが神経を傷つけるために起こり、ピリピリした痛みで、衣服がすれるだけでも痛みを起すことがあります。一方で、何かに集中していると痛みを感じなかったりするという特徴もあります。一生痛みが残る場合もあります。



- ① 出来るだけ早期に治療を開始する。
- ② 抗ウイルス薬・痛み止めを服用しウイルス増加と痛みを抑える。
- ③ 同時に初期に神経ブロック療法を行い、带状疱疹の痛みを取り、回復を早め、带状疱疹後神経痛になるのを防ぐ。

《带状疱疹後神経痛の治療法》

① 神経ブロック療法

☆星状神経節ブロック

顔・頭・手の带状疱疹には星状神経節ブロックを行います。血の巡りがよくなり痛みがらくになります。

☆硬膜外ブロック

脊髄の周りの硬膜外という所に局所麻酔薬を注入する硬膜外ブロックは、神経を一時的にしびれさせて痛みをとるので、首から足の先まで体のどこにできた带状疱疹の痛みにも効果的。

② 理学療法

レーザー照射、温熱療法、電気刺激療法、イオンフォレシス等

③ 薬物療法

鎮痛薬・抗うつ薬・抗けいれん薬・漢方薬などの内服、局所麻酔薬配合の塗り薬など。

生体の流れを正常にする遠絡療法、副交感神経を刺激する無血刺絡(シラク)等の東洋医学も効果的。

※これらの治療でも痛みを取り除くことが難しい場合は、気長に治療すること、むしろ痛みを受け入れて、痛みと上手につきあって生活していくことも大切です(下記参照)。

- ① 入浴(体が温まり血行がよくなり痛みが和らぐ)
- ② 保温(寒さ・冷たさが痛みを増強する場合があります)
- ③ 患部への刺激を避ける(サシや包帯を巻いた後に衣服着用等)
- ④ ストレス・疲労を避ける(睡眠を十分にとり、リラックスして過ごす)
- ⑤ 趣味を持つ・積極的に外出(痛み以外のことに気が向くように)

ご希望・お問い合わせの方は、医師・スタッフまでお申し付け下さい。 ～かわたペインクリニック～

痛み

ペインクリニック
の診療所

なぜ痛いのかわからない、原因はわかっているが痛みで困っている。
そんな方は、痛みを治療する専門の診療所ペインクリニックへご相談ください。

かわたペインクリニック

ペインクリニック(痛みの治療)・内科・リハビリテーション科
〒631-0036 奈良市学園北1-9-1 パラディII5F

TEL.0742-53-1155 FAX.0742-53-1001

http://www.kawata-cl.jp

